

コミュニティ ムス

私と人とまちの間に

2017.MAR

112号

3

編集発行

公益財団法人 草津市コミュニティ事業団



もくじ CONTENTS

FEATURE

ゆく川の流れは、未来へ。

- 2 ゆく川の流れはとだえても
- 3 水はなくても、意味があった
- 5 未来。みんなで考えないと間に合わない。
- 7 ご近所まんが くさつがわ家とお隣さん ~これって、みんなの問題~
- 8 みんなとめん・めん 「継続は力なり」
- 9 より道こ道 「南笠めぐり」
- 10 そのまちに…ICT/事業団からのお知らせ
- 11 草津Q/Next きみたちの草津/ボイス
- 12 熊谷栄三郎の徒然草津 第24回 「お母さんが迷子」
読者の声

車いすバスケの練習

まだの人はぜひ観てほしい車いすバスケ。車いすのぶつかる激しい音。摩擦でタイヤが焦げたようなにおい。コートを目まぐるしく駆けるスピードと張りつめた空気。何度も何度もボールに向かっていく姿に熱くなります。笠山で練習する車椅子バスケットボールクラブLAKE SHIGAは、今年、全国大会に出場します。

二十四節気では春分をすぎると「清明」を迎えます。「花が咲き、若葉は芽吹き、水の音も清らかなころ」だとか。命輝く季節は日本語まで美しい。「清明祭」といって先祖のお墓にお供えし料理を食べ、歌い踊る地方もあるとか。清明は生命、心浮き立つ季節です。



山元國一さん

堀井喜一さん

FEATURE

水はなくても、意味があった

ゆく川の流れば 絶えていた

堀井 子どものころの草津川は水のない川。一年を通して30日も水が流れたかどうかというくらい。底は砂ばかりで、みんな「砂川」って呼んでいました。戦時中は食糧難で、草津高の東側にあったグラウンドには川の砂を入れて、サツマイモを植えたところから聞いたことがあります。

市内の会社で先輩・後輩という間柄だった堀井さんと山元さん。生まれたときから草津川がすぐそこにあったという共通点もあり、今でも交流が続いています。通勤途中に、趣味のカメラに、と草津川を見つけてきた二人が草津川を語ります。

山元 そんな「水のない川」でも、たび大雨が降ると堤防が切れることもあって、米俵に土を詰め土のうを慌てて大人たちが積みに行っていたことを覚えてます。

堀井 大雨の時は堤防の高さギリギリまで水が流れていることもありましたが、今にも溢れそうで、初めて「川は怖い」と感じましたね。

下ぐらいまで引くんです。堰になつたところや水の溜まったところで魚つかみをしました。琵琶湖から上がってきて取り残された魚です。

山本國一さん撮影



*草津市史より

戸も枯れてしまつたんですね。
川であったことを心に刻む
跡地の整備が整い、春には草津川が新たな役割をもって生まれ変わります。公園として市民の憩いや集いの場所となるようです。草津川は天井川。私のまちは川から家並みを見下せるくらい

近くにありません。近所には「昼寝姿も公園から見えるのでは」とジョークを飛ばす人もいます。にぎわいが生まれるのは嬉しいことですが、騒音など地元住民にとって困りごとが増えないかとの心配も正直なところ。この川と暮らした地元の住民が、この場所を嫌になつてしまわ

ないように、生活している人への気遣いは忘れないでほしいです。身近な場所として親しむためには、「あれはダメ」「これは許可を取ってもらわない」といった場所ではなく、あの時の私たちと草津川のつながりのように集う人自身がモラルを守り、またそんなモラルが育つ場所になつてもら

いたい。そしてなにより、この場所にはかつて川があったこと、子どもたちの成長を願って桜を植樹した先人の思いなど、たくさんの人と川との物語があったこと、二人ひとりの川での数えきれない思い出の上に、この公園があることを、来る人みんなの記憶として留めてもらえるような場所になつてもらいたいですね。

堀井喜一さん (68歳 木川町)
山元國一さん (67歳 下笠町)

廃川。そして新たな空間へ。

♪天井川で その名を知られ 愛されてきた 宿場くさつに 大きな体 横たえている…

…もしもあなたが その姿を 変える時がきても ひとの心に 永遠に 生き続けるでしょう この街をずっとずっと 見守ってほしい♪ 「草津川に捧ぐ」(作詞・作曲 長谷川憲一)より

この春、草津川が生まれかわります。国道からJRまでの区間で草津川跡地公園となるのを皮切りに、草津の新たなスポットが順々に生まれます。笑顔をつくり・育み・つないでいく空間。

そんな“今”だからこそ、知っておきたい・留めておきたい草津川があります。私たち市民はどのように草津川とつきあってきたのか、川がつかないでくれたものは何だったのか…。

その姿を変えても、私たちがずっと見守ってくれますように。

山本國一さん撮影

FEATURE

ゆく川の流ればとどいても

田中千秋さん (80歳 草津1丁目)

子どものころから、自分ん家の庭や畑のように草津川を駆け回っていたという田中千秋さん。「まったくもって日常生活のひとつコマでした。」と80年間、草津川を見つめてきました。

セミの声で飛び出す

草津川といえば子どものころ、特に夏の日を思い出します。今のうちにクーラーなんてないから窓は開けっ放し。家の2階で勉強していると、「ジジジ…」とアブラゼミの鳴く声が草津川から聞こえるんですよ。そんな大合唱の中で、「シャンシャンシャン…」と別のセミの声がしてね。「あつ、クマゼミだ」って家を飛び出しました。堤防まで駆け上がると、すでに近所の友だちが何人か。顔を見合せて、みんなで大笑いしました。当時、この辺りにクマゼミは滅多にいないで、どの木にいるのか、誰が先に見つけるかって競争です。遊び道具も少ない時代だから、そんなことでも立派な遊びになるんです。子どもたちはセミの声を聞き分ける耳をもっていました。

水は流れていないけど

意外に思われるかもしれない

けど草津川は自然が豊かでした。町内での堤防の草刈りなんかは家族総出でやるくらいだから、当然、堤防の木や草むらには虫がたくさん。セミやバッタを取りましたね。キリギリスやコオロギを家へ持って帰り、鳴き声を楽しんだりしましたよ。ゴザで土手の草むらを滑り下りるのも楽しい遊びでした。自然や虫だけでなく、男の子なら缶けり・野球・ボール遊びなんかもしましたね。

私が草津小学校に通っていたころは、まだ第二小学校と分かれる前。大路の子どもたちも堤防を越えて通学していました。同じ草津川でも大路あたりは大路の、本町あたりでは本町の子どもたちが川底の砂地で遊んでいました。

山本國一さん撮影



水のない草津川は、子どもたちにとつて琵琶湖へと続く冒険の道でした。釣竿をもつて、てくてと琵琶湖まで釣りにも行きます。餌のミミズも途中で捕まえます。そんな草津川も平成14年に廃川。永久に川に水が流れなくなると、近所の井戸まで水が出なくなりました。水がなくてもやっぱり川。井



保存版
草津川
マメ知識



大雨で 滝沢馬琴も足止め

1802(享和2)年6月、大雨で堤防が決壊。草津宿は2.3mの濁流にのみ込まれてしまいます。この被害で草津宿での足止めをくらったのが、江戸時代のベストセラー作家・滝沢馬琴。あの「南総里見八犬伝」の執筆が始まるのは、その12年後のこと。



草津川の民話

白へび様の恩返し

とある年、大雨で川の堤防が切れました。その瞬間、村人たちがかわいがっていた白へびが龍となり、流れ込む水を飲み込んで村人たちの命を救いました。今も山田幼稚園では2年ごとに園児たちが白へび様をわらで編み、無病息災を願っています。

*民話は「ふるさとくさつ」風景の記憶絵がたりより抜粋



子どもたちよ、健やかに育て

草津川の堤防桜

1910(明治43)年、草津小学校の校長・深尾平八が子どもたちの卒業記念として植樹したのが始まり。保護者からも寄付を募り、桜200本・紅葉100本を植樹。なかなか根づかず、周囲からの誹謗中傷や折られたり抜かれたりする嫌がらせの中、深尾校長をはじめ、教諭や児童の努力により、ついに約1kmにわたる桜並木が完成。



宿場まつりの前身

さくらまつり

娯楽の少なかった時代、草津市民の楽しみ方の一つが「さくらまつり」。桜並木の開花に合わせて開催。立木神社から小沙井神社までの約1kmを浴衣に花笠姿の婦人会・青年団メンバーが草津音頭を踊りつつ練り歩いた。1969(昭和44)年に幕を閉じ、草津宿場まつりとして生まれ変わった。

▼檀原弘行さん撮影



草津川跡地利用市民案作成ワークショップ。
 なんとも今風な名前ですが、実はこれ、2001年のとある活動名です。16年前にこの活動を始めたのが檀原弘行さんです。当時、びわこ空港計画に伴い、県では草津川の跡地を道路にする

草津川ロス

ワークショップ。

案が浮上していました。そうすると桜並木の堤防まで道路やマシヨンになるかもしれない…。草津川がなくなるといふ喪失感に見舞われました。直感的に「それはイヤだ。でも署名を集める反対運動ではダメ。市民による代替案を出さないと」と感じました。でも「市民案って言っても、どうすれば…」。馴染みのあった大学の先生や学生さんに相談し、前述のワークショップを開催することになったのです。折よく、県の助成を受けられることになったのも背中を押してくれました。

市民と行政が一緒に考える年間8回のワークショップ。琵琶湖博物館の学芸さんと一緒に魚の調査をしたり、下流にある大量の粗大ゴミに驚いたり、檀原さん自身にも多くの気づきがあったといえます。特に「これでは草津川に対してマイナスのイメージを持つ人がいてもしかたがない」との印象が深かったとか。一方で実際に川沿いを歩き、草花を植えて手入れをしている人や「堤防があるこの景色が好きで引越してきた」という人も出会いました。



草津川が好きで嫌いな人、困っている人…色々な意見や案などを県に提出すると、県では廃川敷地利用計画検討協議会での検討資料として使ってくれたそうです。ちなみにこの時の協議会案では、市への移管や、全体として残しながら区分に区

- 1965(昭和40)年7月 草津学区50戸床下浸水
- 1964(昭和39)年2月 草津川トンネル改修工事の不手際。雨のため町が浸水
- 1961(昭和36)年6月 堤防決壊6か所。床上11戸、床下306戸。被災世帯11戸、被災者47人
- 1960(昭和35)年7月 梅雨明け豪雨。旭橋付近の堤防に亀裂入るも大事に至らず
- 1955(昭和30)年10月 台風26号。草津川の堤防が切れる。下笠で畑が水没
- 1938(昭和13)年7月 大雨により志津村で幅110mにわたって決壊

自然の脅威

草津川のはらん

普段は水のない草津川も、一たび大雨が降るとその表情を一変。濁流となり、堤防を切り、たびたび市民の暮らしを脅かしました。



砂地で馬を鍛えた

馬駆け

馬駆けは競馬みたいなものやけど、サラブレッドの代わりに農耕馬が石臼や丸太を引いて走りました。朝から竹の皮で包んだおにぎりを持って祖父と行くのが楽しみで、会場の旭橋付近の両岸はもう大勢の人で埋まってきましたわ。なよりの楽しみやっとなんや。

*「ふるさと」くさつ「風景の記憶絵がたり」より

戦争と草津川

甘藷増産

戦争の影が色濃くなる1942(昭和17)年、人々は食糧難に備え学校の運動場からわずかな空き地にいたるまで、食料増産のため土を耕しました。木川グラウンドでは国民学校の児童が甘藷(サツマイモ)を育てました。草津川の砂が使われたと言われています。ちなみに県内のサツマイモの苗づくりは志津のカーネーション栽培の温室が利用されました。
 *草津市史より

FEATURE

未来。みんなで考えないと間に合わない。

草津川跡地プロジェクト「くさねっ」運営チーム 檀原弘行さん(56歳) 野路8丁目

草津川が川としての役割を終え、生まれ変わります。憩い、みどり、つながり、にぎわい…。川の跡地をつかった細長い公園、どこにもない草津の新しいシンボルの姿は、行政だけでなく市民が一緒に考えました。でも15年以上も前に跡地利用の市民案があったって聞くと驚きます？

山元 中学に上がると、砂地を利用して部活のランニングです。野球部の川底ランニングはきつかったなあ。とにかく、川に行くといつも友だちが誰かいましたよ。堤防には結構、木があってね、友だちと「オレはここまで上

川もきれいだっただ。川の砂を持ち帰って、床の下に撒く家もありました。湿気がこもらないようにするんですよ。子どもの遊び場、大人の暮らしの場だった。



山本國一さん撮影▲

水なき川と上手につきあう

堀井 川は私たちの遊び場でした。野球でもなんでもしてましたね。雪が降ると竹そりをつくって堤防で滑りましたよ。

「がれる」なんて張り合ったりして。橋から飛び降りる度胸だめしもしましたね。今思えば、「よく大丈夫だったな」って思うけど、下が砂地だったからできたんでしょ？ね。学校では習わないことを、ずいぶんとあそこで知った気がします。

堀井 砂川だけど、意外と自然が豊かなんですよ。砂原の天神社から上笠橋のあたりまではうつそうと竹やぶが続いていました。春にはタケノコがたくさん出ていました。

山元 虫も動物も結構いた。キツネもタヌキもいた。キジは本場に「ケーンケーン」って鳴いてました。

夏のセミ獲りは楽しかった。網がない時は小枝にクモの巣をくくる巻いて獲るんです。堤防には大きなシイの木があつて、朝早くカブトムシも捕まえに行きました。今思うと、水がない川でも上手につきあっていましたね。

本当はダメなんだろうけど、土手を耕して畑にしている人もいました。堤防の枝木を払って焚きつけに使ったりね。今でこそ、ゴミが目立つけど、当時はプラスチックやビールのない時代だったからゴミも出ない。むしろ、なんでも上手く活用していたから、



イメージ▲

山元 若いころからカメラが趣味です。散歩するときもつい、写真の構図として景色を見てしまいます。「良い画になるかな」って。草津川もずいぶん撮りました。私は基本的に風景を撮るんですが、やはりそこに人がいる画が好きです。桜とそれを愛でる人、堤防と自転車漕ぐ中学生。風景の中に、人の何気ない営みがある。と、写真にグツと趣きが出る。

堀井 仕事をするようになってきたら、健康のために毎朝堤防を歩いていました。家から旭橋まで往復6km、約1時間です。空気が澄んでいて、さわやかな時間です。結構、人が通っているんです。高齢者は散歩、若い人ならジョギング。毎日すれ違つたら、そのうち自然と挨拶を交わすようになります。

川でつながる縁

川があつたんだ

イメージ▶



堀井 草津は草津川で南北に、JRで東西に、と4つに分断されているといわれてきました。草津川が廃川になったことで堤防を取りさり、平たくすることで私の暮らす山田地区でも南北の行き来が楽になるのになあ、と地元から要望を出したこともありま

す。結果的に私が暮らす区間は憩いの空間やにぎわい施設ができるようです。もちろん考え方は人それぞれ。今は「日でも早い整備を願うばかりです。あのころの私たちがそうであつたように、子どもたちが思いつきり遊ぶことができる場所になって欲しいですね。

山元 私たちにとって草津川は自然の宝庫でした。そして、そこに行けば誰かがいる場所でした。そのまま残してほしい気持ちもありました。時代も変わりました。ただ、長い長い時間をかけて刻まれた川の歴史は大切な遺産だと思えます。ここに川があつたということ、一人ひとりの草津川があつたということだけは残していきたいものです。

くさつがわ家とお隣さん ~これって、みんなの問題~



かれこれ40年の「ふれあいタウン」。どこにでもあるようなこの町で、今日も繰り広げられる今ドキご近所のちょつとこなれた毎日。楽しくも少し考えてしまう。もしかして…これって、みんなの問題かも。



こども目線

野球は9人ですもの。「なにを当たり前なことを！」そう怒らないでください。ピッチャーも三塁手もセンターも、誰一人欠けても野球はできません。一人ひとりに大切な役割があります。

まちにも様々な人がいます。一人ひとりがまちをつくる構成員。そう、子どもだってまちの構成員です。野球でもそれぞれのポジションからの見え方が違うように、子どもには子どもの目線、まちの見え方があります。市外のとあるまちの話にこんなものがあります。そのまちでは、住民がまちにどのような問題を感じているのか知るために全戸配布のアンケートを行いました。すごいのは戸主だけでなく、家族全員に回答を求めたところ。

その結果、子どもの8割が幹線道路沿いに捨てられるゴミを不快に感じ「住みたくない」とまで思っていたのです。実はこのまち、もともと不法投棄の多いところで、大人たちにとっては、もはや当たり前。誰も動かず、いわば見て見ぬふりをしていたのです。子どもたちの気持ちを知り、大人たちはショックでした。このことをきっかけに、大人と子どもが「クリーンアップ大作戦」を始めました。子どもには子どもの、高齢者には高齢者の見え方があるんですね。

あなたのまちは、ちゃんと9人で野球ができていますか。

これってやっぱり、みんなの問題。



さく・com-com / え・まんじゅう



檀原弘行さん撮影

ふと、疑問が。檀原さんは子どもたちからずつと野路に住んでいて、草津川とはちよつと離れています。

心の原風景

切つて考えるなど、今の計画に近しいものとなつたそうです。言うだけではダメ。檀原さんは止まりません。翌年には「天井ストリーププロジェクト」を立ち上げ、立命館大学高田昇ゼミの学生たちや、当時、湖南農業高校の事務長をされていた樹木医さん、草津第二小学校の寺尾信校長、地元の有志の方々とも協力しながら、約450本の堤防の桜の木を調査し、桜の寿命や病気となつた樹の手入れを学んだり、引き続き川底の活用を考える場をつくってきました。

時代は流れます。檀原さんはあの時の市民の思いを大切にしながら市が主催する跡地利用のワークショップに参加します。一人ひとりの思いを引出し、まとめる。十数年前、無我夢中で自分がしていたことを、今回はプロの方がやっています。「あの時、自分がしたかったことはこれだ！」って思いましたよ。人と人、人と川がつながり、ともに育み育まれていくことができ、可能性が見えました。それに時代とともに物事の決め方は変えなくてはいけないとも思いました。二者択一でも、白

二者択一でも、白や黒でもなく

「草津中学に通っていたんですよ。毎年4月下旬に写生大会があるんですよ。草津川堤防で描きます。堤防の土手に座つて一日過ごしました。自分の気に入った場所でのんびり川の風景を描く幸せな時間。部活動で夕陽に照らされながら堤防を走る生徒の姿も心に残っています。どれも心の原風景です。その場所が道路になつてしまつては辛かつたんですよ。」なるほど。



草津川跡地公園で行う市民活動の愛称です。草津川跡地の整備と同時に蒔かれた市民活動の種。芽吹いた草が根を広く張っていくように、個人や様々な市民活動団体が、草津川跡地公園を利用し活動することで、人と人の交流が図られ、人と人のつながりが広がっていき、この公園が多様な市民活動の場となって欲しいという想いが込められています。草津市 草津川跡地整備課

や黒でもない。肩書きや年齢、性別で意見の強弱はなく、子どもも意見だつて排除されない。誰もが気負わずに関わることができるといい関係をつくりながら折り合いをつけていく。勇気をもつて変えるべきは変え、守るべきことは守る。そんなことを学びました。」

老いも若きも

くさんの税金が投入され、みんなが考えたことが、続かないようではもつたない。場所の管理だけでなく色々な人が関わってくれる仕組みやルールを、「くさねっこ」活動で考えていかなければいけないと思つていきます。私たち市民一人ひとりも考えていきたい問題ですね。インタビュー中の「どうして市民案をつくる必要があつたのか」の問いに対する檀原さんの言葉で結びます。「老いも若きも、みんな考えて、みんなやっつけていかなければ、なんだか間に合わないって思つたんですね。」



水のない川に光の流れ

草津街あかり

華あかり 夢あかり 11月上旬に行われる「草津街あかり華あかり夢あかり」は、草津の街並みを灯りで彩る秋の夜の静かなお祭り。市民手づくりの灯りによって浮かび上がる街並みのムードに誘われ、多くの人が足を運びます。2008(平成20)年から行われた「あかり銀河」では、草津川に1万灯のキャンドルを灯し、水でなく光で彩られた幻想的な草津川に多くの市民が息を飲みました。



草津川で大きくなった子どもたち

時には自然の脅威を見せる草津川も、子どもたちにとっては大切な遊び場でした。みんな多くのことをここで学び、育っていききました。

- 川原では裸足でかけっこをしたり、相撲を取つた。
- 広いので手づくりの凧やヒコキを飛ばし合った。
- ウルシの枝を刀にチャンバラっこ。
- 野球をした。ボールは布を丸め、グラブは帯しんで、帽子は母につくってもらつた。
- 土手に穴を掘つて戦争っこ。
- マンポの上あたりに遊具があつた。大きなすべり台が好きだつた。土手ではお尻にゴザを敷いて滑つていた。
- 水がぎょうさん流れると堰き止めて、「ゴリエビシヤ」をすくつて捕つていた。
- 冬に2〜3回は10〜20cmの積雪があつて、手製の竹ノリで競争した。



草津ファン☆プロ

Fun and Fan

草津の魅力と人をつなぎ、まちをより楽しく(Fun)多くの方に大好きになってもらう(Fanづくり)ための活動をしています。昨年には「市民レポーター」養成講座を開催し、FacebookやYouTube、えふえむ草津などの媒体を使って市政情報や「宿場まつり」などのイベントの企画から当日の様子までを市内外の人たちへ「市民目線」「市民の手で」発信しました。市民がまちづくりに参加するきっかけづくりや草津の魅力を多くの人に伝えることで、草津の活性化を目指しています。

草津ファン☆プロ



和楽団

ザ・三味線 音楽で「心育」

昨年、クリアホールでの古典芸能の祭典「くれあ座」に子ども9人で唄と三味線を演奏したのをきっかけに発足しました。道灌蔵で七夕祭りを開催し、子どもたちの三味線ワークショップも大盛り上がり。童謡もゆっくりと味わい、学校の学びとは一味違った勉強となりました。合奏では思いやり・協調性・共に感動する喜びも体験し、絆も一層深まります。それは正に子どもたちの情操を豊かに育み、創造性を高める「心育」とも言うべき役割もあると思います。これからはさらに多くの子どもたちに、三味線を「見て、聴いて、触れて」もらって心の琴線に触れる感動を分かち合ってもらいたいです。宿場町として栄えた草津に和の心を繋いでいながら風情を彩るまちにしていきたいですね。

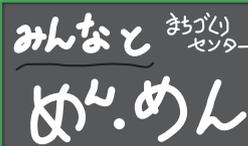


ガマの油口上、南京玉すだれといった伝統芸能の技でイベントなどを盛り上げる「待コミュニケーションシヨ」。

磨いた技を活かす逆転の発想 — 待コミュニケーション —

「私たちがのように巧みな言葉にだまされないでね」。だます技術をだまされないために活かす、逆転の発想ですね。

を話したところ、実はメンバーの多くが同じ経験していることが分かりました。そこで「自分たちにできることはないだろうか。いつも人前でパフォーマンスをしている自分たちだからこそできること」を考え、すぐに「詐欺に注意」のコント仕立ての台本づくりにとりかかりました。技を磨いて人を楽しませる活動に、新たな可能性が生まれました。さあ、さあ、お立ちあい。



和・輪・What

ありがとう

このコーナーは、まちづくりセンターの登録団体でつくる「運営協議会」が担当します。本誌への掲載はこの号で終わります。ご安心あれ。今後も「みんなとめん・めん」はまちづくりセンターで続きます。

継続は力なり

草津には細く長く活動を続けている団体もあれば、いくつかの事業を幅広く展開している団体もあります。活動を通じて蓄えた経験、専門的なノウハウや技術を意外な形で地域に活かしている団体を紹介します。

だまされたらアカン!

みんなとめん・めん 通算53号

問合せ ● まちづくりセンター

☎ 562-9240 ☎ 562-9340

✉ machi@kusatsu.or.jp



スマイ印刷は、自然環境を守る地球に優しい製品づくり「エコ印刷」に取り組んでいます。

SUMAI

株式会社スマイ印刷 sumaiprint.com

本社:520-3014 滋賀県栗東市川辺568-2 p:077-552-1045 f:077-552-0890
東京オフィス:103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4階 p:03-5201-3525
甲賀水口ファクトリーPF1:528-0068 滋賀県甲賀市水口町ひのきが丘36-6 p:0748-63-1045

読売新聞



草津五店会 TEL 077-568-2146



第8回・南笠めぐり

より道 こ道



「いつもの道、から
一歩それてみる。
大人にこそ寄り道の
時間が必要だ。」

石田はま子

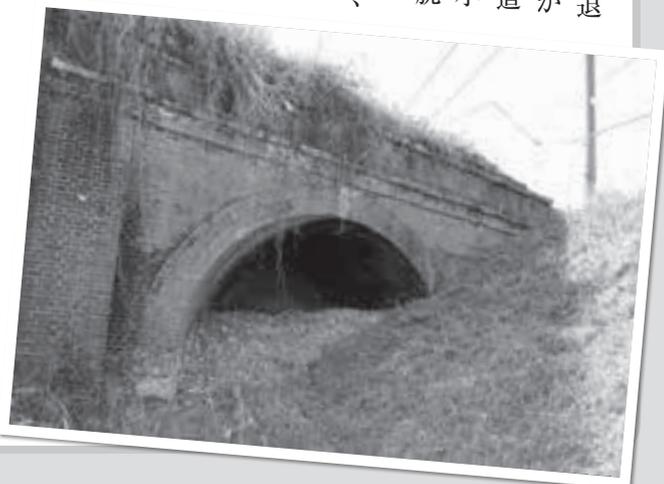
広がる田園の所々に見える古墳。今日は南笠を巡ります。狼川のそば、現在のJＲ線路横には煉瓦式トンネルが残ります。昭和31年の東海道本線電化まで使用されていました。狼川と鉄道が斜めに交差するため、中の煉瓦が捻じれる「捻じれマンボ」と呼ばれる貴重な鉄道遺産です。(町立)南笠公民

館の裏手にある治田神社御旅所の二本木には、新年に五穀豊穡を願って作られる「蛇じゅう」がとぐるを巻いていました。金の目、銀の鱗、赤い舌がリアルです。

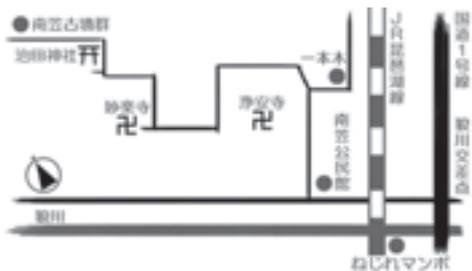
西へ。昔ながらの佇まいを残す集落へと向かいます。道筋が何度も屈曲するこの道は「七曲ななまがり」と呼ばれます。この辺りには、白鳳時代に建てられた笠寺(廃寺)がありました。今も残る瓦や塔心礎、笠堂・堂前などの字名でそれと知れます。

七曲を超え右折。前方に見えるのは氏神・治田神社です。境内には干ばつの際に雨を降らせたという亀の石像や、元は東海道筋にあった「東海道・中仙道」の道標もあります。狼川は大亀川とも呼ばれました。

畑を荒らす狼を退治した亀の民話が今も残ります。道標は、かつて老上小学校の講堂の靴脱ぎ石に使われていました。なるほど、一角が面取りされています。



北東へと向かう細い道は「風呂街道」と呼ばれ、先には草津唯一の前方後円墳二基と円墳が見られます。奈良時代の道路跡も発掘されました。この辺りに多くあった古墳は、江戸時代、膳所藩の命で開墾され農地が広がっています。そして今、ここには宅地の造成が計画されているようです。5年後にはどのような光景を見せてくれるのでしょうか。



ひとりで悩まないで！まずはお電話を！
くらしサポートセンターしが草津がお手伝いします



くらしサポートセンターしが草津
くらし何でも相談
TEL:077-564-5512
住所：草津市大路1丁目1-1 TEL:932 4F 4 0 6

センターへの相談は無料です。

- > くらしサポートセンターしが TEL: 077-522-4600
- > くらしサポートセンターしが大津 TEL: 077-572-7720
- > くらしサポートセンターしが彦根 TEL: 0749-27-3500
- > くらしサポートセンターしが近江八幡 TEL: 0748-37-5522



株式会社 三井田商事

JR南草津駅前に移転しまして6年目を迎えました。
弊社は京都府下及び滋賀県下でOA機器を販売し、自社でメンテナンスをしております。又、企業一般の方への水の宅配事業も展開しております。弊社も地域と共に発展したいと考え、
土曜出勤日には駅前及び会社周辺の清掃活動を実施しております。
今後も地域に貢献し、共に成長していけるよう日々努力して参りたいと考えております。

滋賀営業所 / 〒525-0050 滋賀県草津市南草津1丁目1-5
TEL:077-598-1611 FAX:077-598-1651

そのまちに… いくと ICT



ICTがやってきた。

ずいぶん身近に、わかりやすくなったICT(情報通信技術)。今こそ、あなたのまちのコミュニティに活かすチャンスです。そんな事例を毎回ご紹介します。

SNS

情報は鮮度が命。リアルな情報の受発信や災害時の安否確認など、今やあらゆる場面で活躍しているのがSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)。もちろん、まちづくりの場面でも大切なツールの一つです。近江八幡市の野田町まちづくり委員会では地元の人によってコスモス畑を運営しています。観光目的でなく、地域の交流の場にしたいと、Facebookで開花情報、美化活動に汗を流す人の様子などの発信をはじめました。「今、どれくらい咲いているか」「どんな写真が撮れそうか」など“今”を見える化することによって来場者が増加しました。あなたもまちの“今”を発信してみませんか。

ひとまちキラリ まちづくり活動助成

採択団体
決定!



昨年12月17日開催の「公開ヒアリングおよび審査会」で、29年度は次の4事業に助成することになりました。今後の活動をご期待ください。

立ち上げ支援部門

帰省で自慢できる! 草津のお土産を作ろう ~子育て世代が発信~ 草津の元気と自慢土産づくり隊

草津産食材や歴史をふまえた草津の新しい土産をみんなでつくります。

劇場を、あなたの近くの公民館へ 素人演芸 よもやま劇場

平均年齢70歳を超える演芸劇団。歌と踊りとマジックで、高齢者に“夢と希望”“生きる力”を届けます。



つながろう★安心しよう★マンション防災 南草津マンション防災委員会

マンションが増える草津。防災イベントでマンション住民同士のつながりと防災意識を高めます。



連携・協力部門

パラスポーツ体験会 (特活)アイ・コラボレーション

スポーツはみんなのもの。障害者スポーツへの理解と浸透を目指した体験や講演会を行います。

- 4月からの活動はHP
まちサポ <http://kusatsu-spp.net>
でお知らせします。



草津市コミュニティ事業団ファンクラブ まち活マッチの会

LINE@はじめました。

友だち登録で事業団施設のイベント情報やお得情報が届きます。今すぐ登録して、お友だちになってください。

『まち活マッチ』のLINEスタンプもできました!
『まち活マッチ』で検索!



予告 会員登録受付4月スタート

草津市コミュニティ事業団では、様々な活動を協力支援していただく事業団ファンクラブ「まち活マッチの会」の会員を募集しています。

今年も、みなさんの応援・ご協力をお待ちしています!

まち活マッチの会



LINE@アカウント



LINEスタンプ

問合せ 企画総務課
☎ 565-0404 ☎ 565-1221
📧 community@kusatsu.or.jp

草津

春です。ロクハ公園では花見に、バーベキューに、と多くの人でにぎわいます。桜のピンクに時計台もひとときわ映えます。笑顔いっぱいの広場には平和の鐘の音色が鳴り響きます。あれっ、あきらかにおかしいところが3つあります。わかるかな。



イラスト：大村恵（編集ボランティア）

応募方法

ハガキに①答え②郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号③今号の感想を添えて下記まで。FAX、メールでのご応募お待ちしております。

〆切 **3月31日(金)** 当日消印有効

宛先 〒525-0037 草津市西大路町9番6号
 (公財)草津市コミュニティ事業団「コミュニティくさつ3月号」係
 ☐ com-com@mx.biwa.ne.jp ☎ 562-9340

プレゼント

正解者の中から抽選で本誌「徒然草津」でおなじみの熊谷栄三郎さんの著書「おもしろ楽しくおーい老い!」(サイン入り)を5名様にプレゼント。



笑いで“老い”を受け入れる!

熊谷氏の定年後痛快エッセイ「おもしろ楽しくおーい老い!」

前回の答え



- 冬にひまわりはちょっと変ですね。
- 琵琶湖にクジラはびっくりします。
- 今はもう湖岸に観覧車はなくなりました。

たくさんのご応募ありがとうございました。

※ご応募いただいた内容は、プレゼントの発送および今後の誌面づくりに活用し、それ以外の目的で個人情報を使用することはありません。

Next きみたちの草津

次代の草津を担う若い人たちの眼に、ここ“草津”はどのように映っているのでしょうか。見えてくる明日の草津の姿があります。

ピアーチェ

浅井聡子さん(高槻出身) 写真左

上嶋貴子さん(高槻出身) 写真中央

五十嵐アズサさん(草津出身) 写真右



山田幼稚園の保護者から生まれたママ友バンドです。ピアーチェは楽器ができるママが集まり活動が始まりました。幼稚園や保育園で親子コンサートなどを行っています。ちなみに「ピアーチェ(Piace)」はイタリア語で「楽しい」「愉快な」という意味。

メンバーにはずっと草津の人もいれば大阪から来た人もいますが、草津は子育てがしやすいまちだと感じています。子どもとロクハ公園や帰帆島へ行ったり、道の駅のイモ掘り体験に参加したり。どこも駐車場が広くて車も駐めやすい。そのせいか、大きな公園に親子連れが集まり、近所の小さな公園には人がいない印象もあります。私たちの暮らすまちは駅近郊の住宅地で、田舎の良さも程よくあって、いい感じです。

草津川の跡地も生まれ変わると聞いています。私たちの地元もどのように変わるのか楽しみです。元気で活気がある場所になればいいな。これからも、世代交流をしながら、まちのみんなで子どもたちを見守るまち、新しい住民も入りやすいまちであってほしいですね。

ポイント

施設を利用するみんなの声と笑顔をお届けします。

春に聴きたい曲

クレアホール

早春賦

まちセン

春一番

ロクハ荘

四季の歌

アミカホール

花は花は咲く

ロクハ公園

春に聴きたい曲
おちよちよ

春田公園・トップキッズ
青春時代

なごみの郷

熊谷栄三郎の
徒然草津
つれづれくさつ

第24回

「お母さんが
迷子」

熊谷栄三郎



草津はスーパーマーケットなど大型の店舗が多い町だ。ほぼ毎日、自転車、そのどこかへ行く。二店以上へ行くこともある。たいていは酒と駄菓子を買出し。

駄菓子選びは面白い。好きなものでも、毎日食べては飽きかくなるので、コーナーを行ったり来たりして新しい商品を探す。

小走りに来たおばさんが「これ以外にはありません」とばかり、さつとカゴに入れていった商品を、彼女の姿が消えてからじっくり調べてみたりもする。なんだか面白い。

でも、もつと楽しみにしていることがある。昨年、あるスーパーのレジで、若いお母さんが「子どもが迷子になったんです」と泣いているのを見かけたことが、そのきっかけになった。子どもが泣いているのなら分かるけど、お母さんが泣いているなんて、現代の迷子事情に興味があったのだ。

以来、どのスーパーに行っても、迷子を知らせる店内放送には聞き耳を立てるようになった。店員さんにいろいろと聞いたりす

る。「土曜、日曜に多いです」「四五日に件くらいあります」などと教えてもらう。

面白いのは迷子の子どもものものの言い方だ。店員さんによると泣くどころか、けろっとしている子どもが多く、そんな子は「お母さんが迷子になっちゃった」と訴えるのだと。

さて先日。あるスーパーの二階にいたら迷子発生アナウンスが聞こえた。「階のどこぞ」で、○君をあずかっています」。

ぜひ、親子再会の場を見てみたいと、ゲンバへ急いだ。が、利用したことのない階段を下りたうえ、周囲が客であふれかえっていたこともあって、ナント、自分がどこにいるのかも分からなくなつた。たどりついた時には親子再会なんて、とっくに終わつていた。

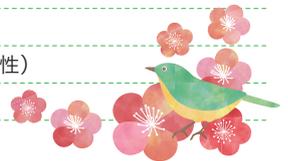
帰ろうとしたら、今度は自転車はどこに置いたかを思い出せなかつた。やっと探し当てたら自転車の怒る声が聞こえた。「どこで迷子になつたんや、ええ年して」。自転車に答えてやった。「ええ年してるからやんか」

読者の声

たくさんのご意見ありがとうございます。

11/1号「まちが、私を待っている。」に寄せられた感想から

- より道こ道の石田はま子さんの記事がよかった。いつもがんばっておられるのを見て私も少しでも近づけたらと思う。(62才女性)
- 「あなたの趣味は・特技は?」を読み、私は旅行が趣味だが人に自慢できる特技はない。「好きなこと」を仕事にしたり趣味をどんどん広げていく人の話を読むとうらやましく、とてもすてきなと感じた。(42才女性)
- 「Nextきみたちの草津」の「草津は都会っぽさと田舎っぽさがちょうど良い加減」とありとても共感する。草津に住み7年。ほど良い加減で本当に住みやすく感じている。発展してほしいが昔ながらの良さも残してほしいと思う。(38才女性)
- 老後に向けて趣味がほしいと思っている。その前に五十肩をしっかりと治してご近所まんがのご婦人のようにハキハキと暮らしたい。(56才女性)
- 熊谷栄三郎さんの講演を一度聞いてからファンになり「徒然草津」を楽しみにしている。次号が待ち遠しい。(69才男性)
- よく見たら中学時代の部活の部長が載っていてびっくり。懐かしかった。(49才女性)
- たくさん情報提供に大変感謝している。(59才男性)



「コミュニティくさつ」は、
みんなで作る
まちづくり情報誌です!

市民編集ボランティア

「コミュニティくさつ」は市民の皆さんと共に作成発行しています。本誌の企画、取材、寄稿、配布などを一緒にしてもらえ市民編集ボランティアを募集しています。写真やイラストが得意な方も大歓迎。

- 編集会議(3か月に1回)で意見を出し合える人
- 取材同行や寄稿をしてくれる人
- 写真やイラストを提供してくれる人
- 自身のサークルや団体メンバーに本誌を配布してくれる人



●申込み・問合せ●

(公財)草津市コミュニティ事業団
まちづくり振興課内
コミュニティくさつ編集部

広告掲載募集

本誌への広告掲載を希望する団体または企業を募集します。ただし企業の場合は本誌の趣旨を理解した上で、物品やサービスの販売でなく、企業の地域貢献や社会貢献の周知に限ります。

- 1回1枠(名刺サイズ)5,000円
- 【コミュニティくさつ】
- 約59,500部発行(年4回)
- 市内全戸配布のほか、市内公共施設や銀行等に配架

●申込み・問合せ● (公財)草津市コミュニティ事業団 ☎565-0477

「コミュニティくさつ」の経費(企画編集、印刷、折込など)は1部あたり15円です。この経費は事業団が行う公共施設運営管理(指定管理)などの経費削減などで得る独自の収益金のほか草津市費、市民の皆さんからの寄付および本誌に掲載している企業等の広告でまかっています。

